

有宵会だより

第87号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

六月・七月の運勢

気学では午六月

六月六日（芒種）節入り

天道

9	5	7
8	1	3
4	6	2

生氣

ア破

気学では未七月

七月七日（小暑）節入り

生氣

8	4	6
7	9	2
3	5	1

天道

破



一白水星の人の運勢

六月筮―天風姤の初六

七月筮―震為雷の九四

六月は何かと用事が多く気忙しい。体調は無理をしやすい。仕事は甘くなるので締めてかかる。わが家は話が出るムードづくり、また思いがけない情報と体験あり。

胃腸疲れ、頭足腰が重い。

七月は一歩前進、内より外に目を向ける。損して得取れ方針で効果あり。仕事は意地張らず柔軟に。

愛情は待つより先に示すと吉。金銭は控え目に。循環器、血行、頭脳疲れ。

二黒土星の人の運勢

六月筮―火風鼎の上九

七月筮―風火家人の上九

六月は活気が溢れ予定がはかどる。仕事は実績を上げるとき。三人寄って文殊の知恵を生かす。付き合いは丁寧に接していく挨拶を忘れなく。家庭内に喜びあり。健康管理をして、夏風邪用心。

七月は上旬にノルマを果たし中旬に一息付く。

家庭の味が恋しく食事が楽しみ。本業に勤しみ信用を大事に。家事費用や修理など気を配る。体調は順調、食生活が大切

三碧木星の人の運勢

六月筮―艮為山の六五

七月筮―水火既済の九三

六月は着実なペースで進む。二兎を追わず欲張らず本筋を求める。どの問題も三度目にチャンスあり。口難には用心のこと。商工業者の仕事では意見の対立避けて無事。

食道胃炎、神経の過敏。

七月は同じ繰返ししの忙しさ、自分の手で処理したいが後半に伸び悩む。わが家の難問は世間流のやり方で解消へ。やや散財ペース、愛情苦勞あり。皮膚、骨筋肉、怪我注意。

四緑木星の人の運勢

六月筮―沢雷随の九五

七月筮―雷水解の九四

六月は運氣が変りやす

いので自重、我を張らず状況へ臨機応変に合わせ吉。リーダーや上司について有益、仕事は志望半ばで焦らず。ウマイ話に棘あり、改革急がず。循環器、関節、胃腸疲れ。

七月の運氣は混戦しやすく不調、特に決断を要する問題は自重。不利な材料を含む。対人面では深入りは禁物、家庭に住居と財産の問題が浮上。心身不調、目齒心臓注目

五黄土星の人の運勢

六月筮―地山謙の六五

七月筮―天山遯の九五

六月の運氣は吉凶半々軽率に動かず慎重に。人の集まりで良いことあり仕事は巧みさで効果、スポンサーが付く。ただし家庭内に齟齬をきたすので用心。誰にでも柔軟に。

循環器、風邪、歯目疲れ。

七月は慎重運、先ず前月からの課題を処理、出るより守りを固める。仕事は油断から引っくりかえる。予定は延びても待つ、金運低調も裕りあり。足腰、血圧、腎泌尿など。

六白金星の人の運勢

六月筮―水山蹇の初六

七月筮―水風井の九五

六月は状況の流れに任せてみる。才気の頭を押えられ公私に窮屈、何でも我慢が大切、仕事は復調への期待、家庭に用事が増える。孫子の心配が続く、金銭甘くなりがち。過敏症、足痛、腎泌尿。

七月は徐々に上向くので忙しい。安定路線を目指す。持ち越しの仕事が続くが確実に処理。愛情問題を意識するが平穩。家事用具の直しか購入か。胃腸の調和、肩膝疲れ。

七赤金星の人の運勢

六月筮―雷火豊の六五

七月筮―沢山咸の初六

六月は堅実さを守るのが良く背伸びをしない。仕事も人生も学ぶことがあり視野を広げる。目下部下の協力は素直に受ける。先を急ぐとミスが出る。日々を大切に小事吉。

軽い慢性症と食を豊かに。七月は伸び伸びと気さくに進める。仕事は新策が面白い。企画やアイデアが活きる。人と仲良く共通を見出す。金運は散財あり物品の貸借をせず。気疲れ、気管、足元注意。

八白土星の人の運勢

六月筮―火天大有の六五

七月筮―沢山咸の九五
六月は公私に意欲的で前向き結果が伴う。仕事は早目に進める。独断があると嫌われる。初心者には有益な門が開く喜び交渉や商談など相手の懐に飛び込む。金運手固く。花粉症、消化、神経痛。

七月は旧来にもどり安心、予定プランに一部変更あり、人の噂には知らぬが仏で通す。また飼犬に手を噛まれないように。重複買いや財布忘れ。風邪、整腸、湿疹痒み。

九紫火星の人の運勢

六月筮―風火家人の九五

七月筮―兌為沢の六三

六月は落着くので無事交際など心配り多く疲れる。懸案問題は答えを分散すると解決の道。家庭内は雑用で忙しい。愛情の表現は大胆に、展示や買物、見字等は収穫多し。

足腰、毛髪、休養大切。七月は多才な面を生かす舞台あり。気持を切り替える。週末をエンジョイしたい。仕事は得意の技で評価、何でも案ずるより生むが易しの見通し。

金運はムダ遣いをしない。気疲れ、頭痛、胃腸など。

福田 有宵

三月有宵会報告

今中 陽子

平成三十年三月三十一日（土）、足立区勤労福祉会館ブルミエに於いて、佐藤宗眩先生司会のもと、有宵会例会が行われました。

福田先生より、研究会を開いて二十余年、今回は内部の実力のある方々に研究の成果を発表していただきたいとお話があり、久保田恵都予先生、濱野延珠先生、佐藤宗眩先生の順で、お三方に占例研究の発表をしていただきました。



「久保田恵都予先生」

まず、実占のスタイルについてお話しします。

気学において、万年暦と方鑑盤はとても大切です。

なかでも方鑑盤は特に大事でよく使いますので、

干支・九星早見表には十年単位にマーカーで印をつけ、月盤・日盤にもそれぞれ見違いがないよう印をつけておくと便利です。

年盤も拡大コピーをして五黄殺、暗剣殺、歳破にマーカーで印をつけておくことをお勧めします。

占い好きの方が鑑定にみえると、今年は良い年とか悪い年といわれたと仰ることがありますが、どこが悪いとか、どういうように悪いという部分は聞きになつていないことが多いです。そんな時には、方鑑盤を用いて説明します。

まず、方位には意味があり、東は朝日の上ることから、勢いがある、または春で植物の新芽を表わしますし、南は一日で一番日が高いところで力が発揮でき、西は夕方、アフター5、秋を表わすので収穫でもあり、気持ちがあほつとすることであります。北は冬であり夜ですので、動かないでじっとしている時、いわば春を待つ休息の場所でもあります。例えば、六白は昨年、坎

宮でしかも暗剣もついていましたから、転職したり、または仕事を辞めてしまった方が多いと思いますので、まずお仕事大変でしょう、と冒頭にお話しします。

この星回りの方はやはり仕事上の悩みを抱えた方が多いです。

坎宮は北、冬を表わします。冬の時代は結果が出ませんので、時期を待たなくてはいいけません。今は土の下にいますので、他の人を下から支える時期です。あけない夜も冬もありません。冬の次に来るのは春。冬はその準備の期間なのです、とご説明します。

こうしたことも方鑑盤を用いると、耳だけでなく目でも分かっていたただけるので、活用しています。また、今年の四緑の方は暗剣がついていますが、東北（艮宮）は三碧が回座していますし、西北（乾宮）には一白が回座して、それぞれ相生の星ですので、この方位を用いると良い、等々。

次は占例について。今年の二月に、相談にみえた方がいらつしやいま

した。この方は二回目の方です。

最初は昨年の六月でご主人との事を相談にみえた方です。

三十年來のご友人と連絡が取れなくなり、疎遠になつてしまったことについてでした。

得卦は坤為地の六四。

「囊の口を括るがごとく黙々と」とあります。

占断は、相手の方あまり人に言いたくない悩みを抱えていて、話をしたくない気分なので、今はそつとしておいてあげたほうが良いでしょう。

その方からいただいたという年賀状も見せてくださいましたので、測字占で判断しました。

賀状の上部中央に母犬、右側に子犬、左側には達磨が母犬に寄りかかるように描かれてあり、添え書きもなく、モノトーンの非常に寂しい印象の年賀状でした。

以下はその占断です。お子さんはお二人ですねと言うと、男二人との答えがありました。

上位である左側は長男と見ますが、これは達磨で手も足も出ない状況と

見ました。母犬に寄りかかっているのも気になりました。

ご長男に悩みがあり、お母様を頼っているのではと思ひ伺つてみると、やはり、ご長男は精神疾患を抱えているのだそうです。

相談者は九紫で、ご友人は一白。一白は昨年、中宮でした。

年盤からも、そのご友人が家庭のことで悩みを抱えていることが見えました。

年賀状での測字占の判断も、坤為地の卦の判断に従い、お友達の方からあなたに連絡を取ってくるまで、しばらく待つてあげたほうが良いでしょう、とお話ししました。

年賀状そのものを持つてこられた方は初めてでしたが、相談者は答えが出るものと思つていらつしやるのですから、それでも何かを答えなくてはなりませんので、非常に勉強になった占例でした。



「濱野延珠先生」

今日は、占い師としての心得、実践での解決法、一押しのパワースポットの三点についてお話ししたいと思います。

「占い師の心得」として、実占とは占い師の心得を磨くところである、という事です。

実占を行いたくないという方の中には、自信がない、責任が持てない、その力がまだない、伝え方がわからない、という方がいらつしやいます。

でも、どんな人でも最初からできるわけではありません。

ご相談者のお力になりたい、ほつとしたお顔が見たいという気持ちが大切なのです。

松戸の無料の占いフェスティバルには、小学生からご高齢の方、お体のご不自由な方等々、色々な方がいらつしやう、ご相談内容は健康や仕事、中には引きこもり問題等、他の人に相談しにくいような重い内容のものもありました。

お話ししたあとのご相談者の安堵したお顔が印象的で、自信がないとい

う方には、その実感を味わっていただきたいと思っています。

「実占での解決法」としては、例えば、深い悩みを抱えていらつしやる方には、氏神様へのお参りをし、一日と十五日にお参りをお勧めしています。

また占術協会の暦を使って、吉方取りのページをお見せすることもしています。

九星開運歴の開運吉方（伊藤璃香先生）は、方位・時間だけでなく、その方位で得られる象意や作法も記載されていて、とても重宝しています。

お水取りのできる場所は予め調べておくといでしょう。

この時、五行の相生、相剋や凶殺についてもご説明しておきましょう。お水取りをして、心が洗われたようで気持ちが良い、前向きになった、元気になったという感想があると嬉しいものです。鑑定をしていて、時に「死にたい」とか、非常に深刻な悩みをお持ちの方にあたることがあります。

不思議にそういった深刻な悩みを抱えている方の中には、表情がニコニコと明るい方がいらつしています。

これはその占例です。離婚してこれからどう生活をしていったらいいかわからないという母娘がいらつしたことがありません。

相談者は母親の方で、悩み事がある時には頻繁にいらつしやる方でした。

お母様の深刻な相談の横で、お嬢さんの方は非常に明るいお顔でした。

そこが気になって、お母様へお嬢さんに注意をむけてあげてくださいとお伝えしましたが、娘は明るい子なので大丈夫です、とおつしやいました。

でも暫くすると、そのお嬢さんが学校に行かなくなり、死にたいというようになったというのです。

このケースは占いや吉方取りだけでは解決がつかないと思い、こういった心の悩みにどう対処したらよいかということで、一押しのパワースポットである比叡山のご祈禱にお誘いしました。もちろん強制ではありません。

ません。でも、ご縁のある方は、ご一緒しませんかとお誘いすると、是非にと仰るのです。

そのお嬢さんは、比叡山のご祈禱を受けた一年目は、頭が割れるように痛い、二年目は背中が痛い、三年目は足が痺れたと言いました。徐々に良くなつていくことが感じ取られて、ほつとしました。

今では濱野先生と日程が合わなければ、お母様と母娘二人で通うようになりました、との事。

もちろん学校も無事卒業し、就職もして、働きの母も良いので次も、彼女の母校から取りたいといわれるほどになりました。

比叡山にご縁をいただいたのは、湯島聖堂に福田先生に易を習いにいらした、妙照先生と仰る庵主様からでした。

この妙照先生を通じて、比叡山律院の阿闍梨様のところと連れて行っていただいたのが始まりでした。

では、どうして比叡山で救われたのでしょうか。今は子供と同じ目の高さでの教育が良いとされ、

子供に優しく接することが尊ばれています。でも、それでは厳しさが足りません。

子供に困難に立つ向かう勇気を与えるのが大人の役目のはずです。

耳障りの良い言葉ばかりでは、子供のためにはならないのです。

昔からお寺の修行というものは、親元を離れ、耐えるということから始まります。

修行中のその厳しさは、例えるなら、完熟した柿を叩きつけるようなものであります。

自分と何か、何は、ということは一切なく、ひたすら言われたことを行うのみの生活だそうです。

悩みを抱えた子供たちを連れていくことが多いので、阿闍梨様に耐える事とはと伺ったことがあります。

一つには帰るところがないという自覚を持つこと。そうすれば、置いてもらうために、言われたことを必死にするし、食べることも遠慮して食べることを覚える。比叡山では一にも二にもお掃除だそうです。

そういった生活の中で、自分というものが培われていくのでしょうか。連れて行った子供たちが真剣に阿闍梨様のお話を聞いている姿を見ると、やはりそこが一番のパワースポットだといえると思います。

では、阿闍梨様とはどういった方なのかを簡単に説明いたします。

比叡山には千日回峰行という七年にも及ぶ荒行があります。

一年目から三年目までは年間百日間、真言を唱えながら、朝の二時から一日三十キロを六時間で巡拝し、四年目五年目は年間二百日この修行を行い、五年間で七百日の修行を終えると、いよいよ「お堂入り」に入ります。

このお堂入りは、九日間を断食、断水、断眠、断臥するという過酷な修行です。

事実、過去にはこの修行中に亡くなった方もあるほどです。

しかし、これで修行が終わるわけではありません。このお堂入りまでは、自分を磨くための修行で

すが、六年目からは人を救うための修行となるので、更に厳しさが増します。

六年目は一日六十キロの巡拝を年間で百日行い、七年目はそれを年間二百日で、最初の初めの百日間は京都を回る八十四キロを一日で巡拝しなければなりません。

こうして千日回峰行をなし終えたら、この回峰行を創始された、相応和尚の参内加持の故事にちなみ、宮中での土足参内を奉修します。



「佐藤宗眩先生」

まずは三月六日の占術協会主催の「暦の読み方の勉強会」には、沢山の方にお集まりいただき、盛況のうちに終わることが出来ました。本当にありがとうございました。

今年は、十一月頃に開催の予定ですので、その際はよろしくお願ひいた

します。

三月二十四日の湯島聖堂での立喰会も乾象先生、泰山先生、金原先生方のご尽力を賜り、お天気にも恵まれて無事終了することが出来ました。

その時に立てた噬ですが、占的は佐藤先生が喜寿を迎え、これからの人生と占いについてでした。本卦は雷天大壮の九三。本卦は勢いがあってよいのですが、三爻なのが玉に瑕というところでしょう。

さて、占例ですが、日本占術協会のホームページで、メールでの無料鑑定を行っていた時のことをお話しします。

占ったのは今年の三月の上旬のことです。

相談者は平成五年四月二〇日生まれの男性です。仮にこの方をMさんとお呼びしましょう。

昨年八月頃からうつ病を発症し、今年の一月から三月いっぱい休職させて貰っているとのこと。

昨年春から社会人となり、自分としては頑張ってきたつもりだったが、行動が裏目・裏目に出て、

体力的にも限界がきたという感じで、今は療養として実家に戻っています。

家族は両親と姉が二人ですが、次女の方はすでに結婚して別居していますので、両親と長女が同居しています。

実家は大阪府箕面市ですが、彼は大学と勤務先は東京です。

病状は徐々に回復してきたのですが、ここにきて酷く悪化してしまいました。

というのも、父・母・姉の家族間の不仲さからくる愚痴を、双方から聞かされたからです。

いまはただ苦しい、死にたい気持ちになっているとのこと。

ここで、まず彼の命式を見てみましょう。

平成五年は、本命は七赤金星の酉年、四月二十日生まれだと月命は六白金星で月盤では暗剣と月破が乾宮につき、傾斜は乾宮になり、年盤では兌宮に暗剣、震宮に歳破がついています。

昨年の平成二九年の年盤を見ると、一白水星が中宮にあり、二黒被同会で、Mさんの月命の六白

は坎宮にあり、しかも暗剣がついています。

この年の八月頃から精神が不安定と言っています。が、私は前年の平成二八年九月ごろから、その原因と兆候があったように思いました。

平成二八年は、本命の七赤が坎宮にあります。

ここから不調の原因となる悩みが生まれたのではないのでしょうか。

Mさんの生年月日から判断しますと、友人や上司に恵まれると、大変な力を発揮できるというところがあります。が、二八年九月以降、そのような星回りにはいません。

生まれ月の月盤上で、乾宮に暗剣と破れがついているので、そこが吉も凶も強く出るのでしよう。

乾宮傾斜の人は正義感が強く、上司であっても付度しないタイプの人が多いですから、それ故にうまくいかなかったのではないのでしょうか。

大学入学のため、大阪から東京に引っ越した年を確認したいと思い、それは平成二三年のことではないかと確認したところ、やはりそうでした。

この年は七赤中宮です。で、五黄が震宮に回座します。

震宮は東の方角なので、方災を犯していたのです。東方位の方災は、精神面での不安定さを増しやすくなります。また、ここは長男を意味しますので、長男であれば、その方災はより強く強く出るので

す。対処策としては、今は大阪にいらつしやるのであれば、方災よけとして京都の北野天満宮の近くにある、大將軍八神社お参りし、方除けをしてもらうと良いですよ。

四月になって上京するのであれば、平成三十年は四月六日から東方位に凶神がついてしまうので、四月五日までか、五月六日から六月五日の間が無難だと思えます。

人は天の氣と地の氣の間に生かされていますので、その二つの氣が良い時を選んでください。あなたは出来る人です、とお伝えしました。

三日後、協会のお礼のメールがあり、こんなに当たる占いは初めてのことでした。

次は恋愛相談の実占例です。

相談者はKさん、一九七一年（昭和四六年）七月四日生まれの女性で、本命が二黒、月命は七赤、傾斜は九紫の方です。お相手の男性Sさんは本命三碧、月命七赤、傾斜が一白です。

相談者は女性のKさんで、今後どうなるか、うまくいくかのお尋ねでした。こちらは対面での占いで、十二年もお付き合いを続けているとのこと。

お互い独身で十二年もお付き合いしているのに、何故結婚しないのか気がになるところです。

このお二人は月命が同じなので、価値観が違っても分かり合えるところがあります。が、傾斜が一白と九紫で南北の対沖にあたります。

恋愛において、傾斜が三碧と七赤の東西の対沖、一白と九紫で南北の対沖というのは非常に多いのです。特に一白と九紫の南北の対沖は結びつきが強く、くっついたり離れたりを繰り返します。なかなか繋がりが切れない

ものです。

ものです。



「福田先生の解説」

理論と実占は、易の両輪です。知識の部分を実占で応用できて初めて本物となるのです。

久保田先生、濱野先生、佐藤先生はお三方とも原宿のタリムに出ておられて、対面での力のある方達です。

久保田先生の測字占は年賀状の挨拶文であったり、印刷のズレや変色等も占う際のポイントになります。

向かって右、当事者側から言うとき左が上位、右が下位、中央は尊位（最も上位）と見ます。

この場合、向かって右の達磨は長男と見ます。達磨さんは修行のため、九年間座り続けて足が腐り落ちてしまいました。中央は母親とみたのは良い判断です。

話を聞いてから答えを出すことも大切ですが、話を聞く前に問いかけることも必要です。

それは会話のテクニックでもあり、対面での実占では重要な要素となります。

真ん中の犬の目がどちらを向いているかも、面相法として重要です。もし、

母犬の目が右を向いているのであれば、左の長男

が助けを求めているのに、母親の関心が右の下の子

に行っていると見ます。

久保田先生は直感力に優れた先生なので、こういった占法は良いでしょう。

得意な占法を延ばしていくことが大切です。個性

となる、特徴となる占法を選んでいくことが重要

です。

濱野先生は比叡山律院に通われています。

阿闍梨様は回峰という修行を積まないと呼ばれないですし、ましてや大阿

闍梨様となるとなかなか出ないほどです。

真言宗にも阿闍梨という称号はありますが、天台

宗の千日回峰行とは違います。

濱野先生がご用意くださっ

た資料にある律院ですが、護摩堂の鬼瓦は何に見えるでしょう。

実は、鬼瓦がお坊さんの形をしているのです。

屋根のお坊さん達も律院を守っているのです。

測字占は、あるもの、見たものから感じ取る、直観力を養います。

古く阿含宗の桐山管長は、護摩を焚いた炎から、どの仏様がいらしたのかを感じ取られました。

測字占は、まず見て、感じ取り、次はそれが何を表わしているかを理解することです。

先程も濱野先生のお話に出てきましたが、比叡山の律院で修行された尼さんで、堀妙照先生とおっしゃる方が下山することになった際、岡山の天台

宗のお寺で易を学ぶように教えられる、紀元書房の書籍で学ぶようになり

ました。

以前、堀先生、福田先生、濱野先生の三名で比叡山

律院に行った事があります。十五キロの山道を昇

ることは本当に大変なことでした。その際、比叡

山大阿闍梨様と二人だけ

でお話しする機会を得ま

した。千日回峰行をされ

た方は皆様とても謙虚で

す。修行をするとのようになると、通力を得るとのお

答えでした。所々に小さなお宮があり、必ずそこで真言を唱える。無我夢中、一心不乱です。横川と北嶺が回峰行のスタート地点です。

回峰行の行う人は行動の人、組織（お寺）のトップにはならないのです。

一人の方が良いタイプの方です。お若い阿闍梨様

は眼光の鋭い方が多いですが、お年を召した方は

温和なお顔の方が多く

です。

パワースポット、同じ

方位ならどの神社が良い

か。地理的、地形的問題

ですが、行った事の無い

場所を勧めるのは難しい

ので、易をたててみるの

が良いでしょう。得卦の

中で、どういった心づも

りで行った方が良いかも

答えてくれます。一般的

には、六大凶殺（暗剣殺、

五黄殺、歳破、月破、本命殺、本命的殺）を言うが、七大凶殺、八大凶殺

というのがあります。

は、今日の会報に書いてあります。④の对冲法からご説明します。傾斜による相性は（1）五行で

見ると離宮と坎宮は、火と水なので相剋で凶。

（2）流派によつては、

对冲であれば傾斜宮の相剋は吉とするものもあり

ます。对冲はお互いを真正面から見つめ合う

ので、惹かれ合う。（3）

離と坎は表裏の関係に有り、最もお互いに求め合

う相性なのです。表裏一体というように、最も恋愛に発展しやすい相性。

成長しあえば添い遂げることもできます。

異質な人とどう付き合うか、どう理解しあえるか。

成長とはどういうことなのか。地理的、地形的問題

ですが、行った事の無い場所を勧めるのは難しい

ので、易をたててみるの

が良いでしょう。得卦の

中で、どういった心づもりで行った方が良いかも

答えてくれます。一般的には、六大凶殺（暗剣殺、

五黄殺、歳破、月破、本命殺、本命的殺）を言うが、七大凶殺、八大凶殺

というのがあります。

多い。九紫中宮の歳は噴火が多い。年盤の坎宮に

五黄のマグマ、その上の中宮に九紫の火山、さら

にその上の離宮に四緑の噴煙。今年は南北の縦の

ラインに注意。年盤の配置からどういう答えを出すかが大切です。

今年は休火山が動き出す年です。鳥海山、蔵王に

要注意。日本列島の下に渦を巻いている状態です。

艮宮に三碧が回座。

この三碧と八白は表裏の関係ではなく、先天定位

盤・後天定位盤の関係で考えます。

佐藤先生の八鑑法、非常に良く出ています。

実占とは、様々な方の人生を学ばせていただくという事でもあります。

昨晚の「朝まで生テレビ」で原発、エネルギーの問題を取り上げていました。

今、大気はどうなっているのか、地上・地中に障害はあるのか。もし汚染

が残っていたら年盤上の吉方であっても、その場合、吉方となるのである

うか。方位だけでは判断できません。若者の甲狀腺癌の問題が出てきて

いますが、いつの時代もそ

うですが、政府はうやむやにしようする傾向があります。日本人の国民性は熱しやすく冷めやすい

のです。

吉方位の問題では、五行が深く関係します。

三才といい、天の気、人の気、地の気があります。

その土地を五行で分析し、どのような意味を持つ土地、吉方であるかを判断

します。

例えば二黒・五黄・八白の土星の人であれば、土

気を中心に考えます。

五行で地上に出ているのは、木気と火気で、土の

下にあるのが、金気と水気です。

土の上にあるものは、天の気を受けることが多く、

土の下にあるものは地の気の影響をより受けます。

健康面や体の事は土、金、水の方位が早く結果を出

します。

方位についてですが、古くは源氏物語の時代の方

違え（方塞がり）は、陰陽道からきています。

方塞がり、光源氏が女性のもとに泊まりに行こう

とするが、今日は日が悪いと父の帝に止められて、泣く泣く諦める。

泣く泣く諦める。

方塞がりとは、日取りが悪いという事でした。江戸時代は、現代の方位とは少し違った考え方をしています。

嫁取り・婿取りは日取りが大事で、江戸時代の日取りは十干・十二支で考えられており、九星は考えられていませんでした。滝沢馬琴は方位吉凶を学んでおり、よく引越をしていました。馬琴は場所、環境にうるさかったのです。

天道、天徳、天徳合、月徳という福神についてお話ししましょう。

天道は、十二支の配置で決まります。(以下は旧暦です。)

正月・九月は南、二月は西南、三月・七月は北、四月・十二月は西、五月は西北、六月・十月は東、八月は東北、十一月は東南。

天徳は、十干だけで決まります。

一月は丁、二月は坤、三月は壬、四月は辛、五月は乾、六月は艮、七月は癸、八月は艮、九月は丙、十月は乙、十一月は巽、十二月は庚。

天道が主で、次が天徳そ

の次が天徳合、月徳合となります。

なぜその位置に配置されるのが重要で

天道・天徳を吉神・福神といいますが、七福神等の福神信仰とは別物です。

「吉」とは良いという事。「福」とは吉がもたらした結果をいいます。

徳(天徳・徳神)の意味ですが、どういうことをしたら「徳」になるのでしょうか。

五常の徳目は、仁・義礼・智・信ですが、どの星に徳神がついたかが重要で

す。徳合(天徳合・月徳合)は、幸福になれる方位であり、建築・造営に良いとされています。

一月は壬、三月は丁、四月は丙、六月は己、七月は戊で家相上の中心になります。九月は辛、十月は庚、十二月は乙。

二月、五月、八月、十一月には天徳合にあたる方位はありません。

昔の本には、これしか書いていませんが、その理由はそれらが土用を含んでいる月だからです。

月徳合は多くの不幸が消え、多くの幸せが集まる

といわれています。

一月・五月・九月が辛、二月・六月・十月が己、三月・七月・十一月が丁、四月・八月・十二月が乙。

どうしてそこに行くかの説明がないので、そこを説明していくことが大切です。

方位盤・方鑑盤には、吉神、凶神等全て記載されています。

吉神(天道・天徳・天徳合・月徳合・生氣)の中でも、病人には特に天道の対沖にある「生氣」が良いでしょう。

ここは活気が出る、生き生きとしてくるという場所です。

また、三碧・九紫・六白方位は結果が出るのが早いものです。

まず、早い結果で小康状態をもたらし、その次にじっくり健康に戻していくというのを、テクニクとして用いると良いでしょう。

どんなアドバイスも聞いて貰えなければ意味がないので、早い段階で結果を出して、信用を得ることが大切です。

「方違え」(方位読み解き辞典より)とは、固定

した方角の事ではない。

陰陽道の考え方で、天一神、太白神、大將軍、金神が回座する方位は塞がっている

ので、別の方位に行く、方違えするという事。

方違えとは、方塞がりという考えを土台にしています。

三年塞がりという考え方があり、三年間は普請等出来ませんが、気学ではこの考え方を取っていません。

この三年塞がりという考え方は、今では殆ど行っていないませんが、宮内庁等は今も行っています。

昔は方鑑師という人がいて、各地を回り滞在して、普請についてのアドバイスを与えていました。

今でいうところの風水師で、数年かけて行っていました。

昔は今とスピード感がまるで違っていました。

元禄時代ごろから占法というものが開示されてきました。

Ⅱ 質問に対する回答Ⅱ

「空亡」についてですが、気学上の配置の「空」と

「空亡」は関係がありません。一休み、というく

らいの意味で吉凶はありません。

天中殺と気学では違

います。判断方法(占法)の違いを術者はよく考え、どれで見るのが最も良いかを選ぶことが大切です。

過ぎたるは及ばざるがごとしと言いますが、空とは過ぎてはいけないという事です。

福田先生、佐藤先生、濱野先生、久保田先生、貴重なお話をありがとうございました。

京都・祐氣取りの旅(2月25日から27日)

松戸教室 太田正子

昨年福田先生から京都の神社に行かれた時の話を聞いてから、私も京都に行ってみたいな

とおもって2月に行きました。

行く前には京都に詳しい先輩のKさんから神社の情報やお水取りの事など教えて貰いました。



私と同行した友人も星が一緒なのでとても動きやすいのです。

(25日)に京都に着き

吉田神社へ。先生からは「行きたいと思うところは現地に着いたらウロウロしないで真っ直ぐ行きなさい」と助言頂いた

のでタクシーで向かい

ました。吉田神社には「大元宮」という末社があり、そこ

でお参りすると「八百万の神」の参ったのと同じ、

と言われている私達は「大元宮」でのご祈禱を受けることが出来

ました。社殿はとても小さく中に入ると一段低くなってい

るところが土間で、そこに藁が敷いてあり、二人

で座るといっぱいです。周りは飾りも無く神様の鏡があるだけ。なんとも

厳かな雰囲気です。宮司さんの祝詞は普段よりも

とても長く、色々な神様のお名前が聞こえてき

ます。

大元宮は昔のままに寸法も変わらずに建ててある

そうです。

いただいたお札には、よくある祈願文はなく「大元宮祈禱」とあるだけ。

さらには普通お札に結んであるのは金銀の紐ですが、木をカンナで削った時に見る、木を薄く削った紐。自然のままです。

京大の傍に建っているの、当日受験した若者たちが御参りに来ていたのですが、宮司さん曰く「受験に運は無い」とハッキリ2回もおつしやいました。日頃の努力が大切なんでしょうか。

吉田神社から北野天満宮へ。バスで移動しましたが車内の地元の方の京言葉が聞こえてきて京都に来た事を実感しました。

2月25日は梅花祭といって道真公のお誕生日に当たり、舞妓さんたちのお茶の振るまいがあったり、観光客・地元の人でいっぱいです。

しかし、さすがに全国天満宮の総本宮であり、りっぱで荘厳な雰囲気感激しました。受験生ならお願いしたくなる気持ちですね。

天満宮の次は場所も近い大將軍八神社に。拝殿で手を合わせるとすぐに何かが目に浮かんで

きました。

暗い闇のようではなく深い群青色にみえます。そして白い線の五角形が見えてきます。五角形はユラユラと大きくなったりして何だろうと思っているうちに消えて、私も御参りもおわりました。

この色については大將軍八神社のご朱印を頂いたときに、神社の成り立ちなどが書いてあるパンフレットをいただきましたが、京都から戻りゆつくり見ると、このパンフレットの色が浮かんた深い群青色なんです。自分でもビックリでした。

(パンフレットは宇宙の群青色に北斗七星と北極星がデザインされています。)次に錦市場へ。5時を過ぎていたから市場のお店は半分以上閉まっています。残念。市場の奥にある錦天満宮に御参りました。

〈26日〉は私達の星にはお水取りが出来る日。朝9時〜11時なので下賀茂神社へ向かいます。糺の森を歩くと天気も良かったので清々しい気持ちになりました。

又、近隣住民の出勤途中の方がきちんと体を社殿に向き直って一礼してから行かれる姿を見て心がホッコリとなりました。

下賀茂神社は世界遺産に登録されていますが、普段は本殿がみえないのでしょうか。拝殿なのか？と思われる所には、御簾が掛けてあり中の様子がわからないのです。少し残念な気がしましたが御手洗社でお水をいただきました。

次は御所傍の梨の木神社へ。ここは落ち着いた雰囲気神社で名水で有名。手水舎の傍に水道の蛇口があり、参拝者はたくさんお水を持っていっていました。



次に晴明神社へ。晴明神社には次々と人がきています。若い方が多いようです。芸能人やスポーツ関係のかたの絵馬がたくさんありました。勿論

羽生選手の絵馬も。29年7月5日怪我のないように、と祈願してありました。・・

羽生選手は11月に大変な怪我をしましたが一番の舞台で金メダルをとることが出来。やはり大事な最後に神様はみてくれたのだと思いました。

次は御金神社へ。「みかね神社」と読みます。ここは本当に金色の鳥居です。でもピカピカな金色ではなくクレパスの金色。二十四時間開いているので拝殿の鈴は、周囲に配慮して音が出ないようになっていました。小さい神社ですが手水舎のところにザルがあり、銭洗いができるようでした。

私も金運アップを願って御参りました。そして神社をでてバス停に向かう道で、ナントお金を拾いました。偶然と言うよりも、もっと強い何かに導かれた気がしました。有難いです。

この日最後は東寺へ。五重塔の初階が見学できるとの特別期間。五重塔の初階は大日如来像が正面

に見え、柱には仏像の絵がたくさん描かれています。また塔の中心の心柱が石の上におかれているのも見えました。

金堂に入ると薬師如来の巨大さに声を呑みます。あんなに大きいのですがその慈悲深い優しいまなざしに、いつまでもそこにいたい、眺めていたいと思いました。

そしてテレビで何回見た立体曼荼羅がある講堂です。

空海さんが伝えたかったこと。もう時間がギリギリでゆつくりできません。

〈27日〉は昨年ブームの伏見稲荷大社へ。ここは稲荷駅を降りるとすぐ目の前に大きな鳥居がむかえてくれます。どこを見ても目に朱色が飛び込んできます。私が行った時は韓国人・中国人の会話がアチコチから聞こえてきて、私がたくさん観光人でワイワイ・ザワザワしていました。商売・仕事の神様というところで、私は小さな小さな仕事をしているので継続できるように願いました。帰宅が27日の午後の列

車だったので伏見稲荷だけで終わります。

そして京都から戻った翌日にお客様からお仕事の依頼が2件も入りまたもやビックリ。これは稲荷大社のご利益をいただけたのか、と。先生にお話したら先生は「もつと2〜5件ふえますよ」とおっしゃいました。その後4件ふえ(先生凄いです!)合計6件の依頼がありました。

今回の京都には40年ぶりでしたが、観光はせずに神社にいけるだけ行ってみようと思画しました。計画の予定通りたくさんの神社を御参りすることができ、有難く思うことがたくさんで身に余る旅となりました。

ご紹介

合掌

福田有宵

安藤先生は、本会の同人として、大変ご協力をいただいております。多才の方で、占術に関してもご理解を頂いておりますが、歴史や文化に蘊蓄が深くあります。地誌にちゅうもくされたのはいつ頃からでしょうか、

善福寺川の流れと題しての
小史を綴られました。

叙述的に記録をまとめられた文章から、善福寺池の情景が脳裏に浮かんで来ます。そこは杉並区の西端にあり、石神井の三寶寺池、井の頭池など武蔵野の三名池に数えられています。

古くは湧水池でしたが枯渇してしまい、現在は地下水の汲み上げによる水源です。杉並浄水場の良質な水源であり、全国の水道でトップレベルとのこと。

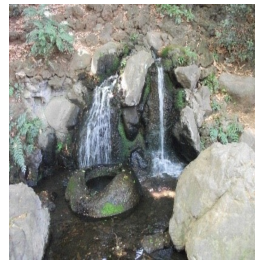
池畔にある名井「遅野井」も涸渇し今は揚水ですが、景観は昔のままに残されています。

源頼朝が義経討伐に赴いたとき、飲料水に困り弁財天に祈願して得たという伝説の井戸、水が湧くのを今や遅しと待ったところから、遅野井と呼ばれるようになった。池周辺に二百本余の桜が、毎年春を告げてくれます。



平成30年4月10日
(火) 善福寺川歩き・第1回目。
三鷹駅↓荻窪駅↓
(バス) 善福寺川公園↓善福寺池↓春日橋
1) 善福寺池 善福寺川源流・遅野井の滝。

安藤 忠男



※189年源頼朝が奥州征伐に向かう途中、飲料水を求めるためこの地で土を掘りました。折からの干ばつでなかなか水が出ず、自ら弓の「はず」で土を7箇所掘ると、しばらくしてその7箇所水が湧き出たといわれています。

水の出を「今や遅し」と待ったところから「遅の井」と命名された。(公園案内板より)。現在は、泉が涸れており、新たに井戸を掘りポンプで汲みあげ、遅の井の滝として復元しています。

※善福寺川・・・東京都を流れる「荒川水系神田川支流」の一級河川。杉並区の善福寺公園内にある「善福寺池」に源を発する。

杉並区を北西から南東に貫くように流れ、中野区の「地下鉄丸の内線中野富士見町駅(中野検車区)」付近で神田川に合流する。全長11.3km。神田川の和田見橋の次の橋が、善福寺川最下流の橋となる和田廣橋。和田廣橋の手前には、「善福寺川源流・遅野井の滝から1.3km地点」という小さな標識がある。ちなみに善福寺川の全長は正式発表では10.5km。800mの差は、川の流出口から遅野井の滝までの距離。

※善福寺池の辺(ほとり)に、善福寺池を源とする善福寺川の説明板が立てられており、次のように記されている。

↓「善福寺川は善福寺池を源とし、杉並区の中央を蛇行して流れ、中野区に入って神田川に合流する区内最長の川で、区内での延長は約十キロメートルです。この川の流域には、区内における最大

級の複合遺跡として知られる松ノ木遺跡(先土器時代)と奈良・平安時代)を始めとして、光明院南遺跡・川南(かわみなみ)遺跡・谷戸(やと)遺跡・大宮遺跡・済美台(せいびだい)遺跡などがあり、こうした遺跡や包蔵地の所在は、かつての水量豊かな善福寺川の流れを古くから人々が活用していたことをうかがわせます。

徳川家康は天正十八年(1590)江戸に入国すると、ただちに善福寺川・神田川・妙正寺川を給水源とする最初の上水といわれる小石川上水(のちの神田上水)、をつくり江戸に給水しました。そして明治三十四年、飲料水を廃止するまで、善福寺川は東京における最古の水道源のひとつとして人々を潤わせたのです。善福寺川は、かん

がい用水としてもひろく利用され、流域の農村・農民にとって農耕上・生活上重要な価値を持っていました。また、子供達の水遊びやつりの場でもありました。善福寺池西側には、源頼朝ゆかりといわれた噴泉があり、か

つては盛んに湧水していました。今日、池を中心とした周辺は区内有数の公園として親しまれ、区民の憩いの場となっています。私たちは、このよう

な歴史ある河川を一層大切に守りつづけたいものです。「昭和56年2月15日杉並区教育委員会」。

※「遅野井の滝」を背にして善福寺池を見ると、池の淵に小島があり「市杵嶋神社」が鎮座する。(市杵嶋神社) 次のように記されている。↓「この島に鎮座する社は、市杵嶋神社といい、祭神は市杵嶋姫命です。当社は江戸時代、善福寺池の弁才天といわれ、『新編武蔵風土記稿』には「池の南に弁天の祠あり。一尺(約30cm)四方にて南に向ふ。本尊は石の坐像にて、長八寸(約24cm)ばかり」とあります。また、寛永年間(1624〜44)には、それるまで祀られていた右手奥の島から現在地へ移されたといわれ、それ以降、その島を「元弁天」という様になりました。「善福弁才天略縁記」によれば、この地域の旧名「遅の井」の地名譚(源

頼朝が奥州征伐の途時この地に宿陣し、飲水を求めて弓矢で各所を穿ちましたが水の出が遅く、弁才天を祈り、やつと水を得た)に倣い、建久8年(1197)に江戸島弁才天を勧請したのが当社の始まりとあります。このことから甘水に靈驗ありとして、早魃の折には区内はもとより、練馬・中野の村々からも雨乞い祈願に参りました。雨乞い行事は、池水を入れた青竹の筒2本を竹竿につるして担ぎ、その後に村人達が菅笠を被り、太鼓をたたいて「ホーホイ、ナンボエ」と唱えながら村境を巡りました。また氏神の前に井戸水ち池水をはった四斗樽4個をすえ、四方に散水しながら祈ったともいわれています。この様に早魃の年毎に行われてきた雨乞いの行事も、昭和24年(1949)を最後に見られなくなりました。「平成元年3月 杉並区教育委員会」。

『新編武蔵風土記稿』を見ると、市杵嶋神社は一名「善福寺弁才天」と呼ばれ、石の座像を本尊とし、明治初年までは今川

家の墓がある「観泉寺」が別当寺で、現在は井草八幡宮が管理をしている。観泉寺が所蔵する「善福弁才天略縁記」によれば、（前述を補足し、現代語にて訳す）文治5年（1189）8月、この地に宿し、そのとき、奥州の安否を心配し、氏神である正八幡宮（注1）に誓いを籠めたところ、種々の霊瑞があり、ついに無事に征伐できた。同年11月、凱旋の際、宿願御礼のために、この地に神社を営建し、源家守護神として崇尊奉った。さらに、神社の税、僧房を寄進したことは、八幡記の通りである。

建久八年（1197）、江ノ嶋弁才天を勧請して市杵嶋神社を創建し、別当寺として善福寺（注2）を置いて、万福寺、東福寺を末寺とした。（以降略）



老いの三つの意味

“老”という文字には三つの意味がある。
一つは年をとる。
二つは練れる。
三つは“考”という通
用して、思索が深まり、
完成するという意味だ。
老いるとは単に馬齢を加えることではない。その間に経験を積み、思想を深め、事故・人生を完成させてゆく努力の過程でなければならぬ。これを“老計”という。
それには先ず学ぶことだ。学問は年をとるほど良い。百歳になつての学問は、実に深い味があると思う。老いてボケるというのは学問しないからにすぎない！



貝原益軒

貝原益軒先生は、八十四歳で亡くなっておりますが、死ぬ一年前か二年前に始めて益軒と改め、殆んどその最後まで損軒

と言っておりまして。
・・・六十にして化す
ということがありますが、
本当に八十という声のか
かつとときに始めて益軒
に改めた。・・・さす
がは益軒先生だと思いま
す。

若い時はなかなか道楽者でもありまして、京都の島原あたりでよく遊びましたので、従つて酸いも甘いもかみ分けた人です。
そこで益軒先生の色々書き遺されたものを、人生訓、処世訓、養生訓など読みますと、実に至れり尽くせりであります。余程の苦勞人でなければ書けない、言えないことを細かく書いております。よく何も知らない人は、漢学者というものは、余り人情に通じない形式道徳のかたまりみたいにいることが多い。従つて、貝原益軒などは、こちこちの堅物とたいいて思つておるのでありますが、豈はからんや、若いときはなかなかの道楽者で、遊んだ人でありまして、これではいけないと自覚して中年から勉強を始め、いかりを懲らして欲をふ

さぐ生活をした人であり
ます。



命は吾より作す

人間が浅はかで無力であると、いわゆる「宿命」になる。人間が本当に磨かれてくると「運命」になる。すなわち、自分で自分の「命」を創造することが出来るようになる。それを「命は吾より作す」という。

政治の四患

政治について古来から言われている四患―四つの病弊がある。
第一は偽である。
ウソ、偽りは小事ではすぐわかるが、社会、公共の事になると段々真偽が紛らわしくなる。
第二は私である。
昔は政界に出ることは私産を失うのが常識であつた。今は自分の為に、公をかりることが平気である。
第三は放である。
無軌道、放埒、無礼、

無責任等である。礼儀も道徳も秩序も法律も無視して、自由と権利の下、勝手放題にやつて省みない。
第四は奢である。
放と同じく一度味をしめると、容易に節儉の生活に戻れない。文明は生活の利便を高めたが、それと共に恐ろしく奢侈にした。

NPO通信

賛助会費として左記の方からのご寄付を頂戴いたしました。（敬称略・順不同）久保田恵都予・杉本有穂・佐京充珠・高田玲照・牧野有峰・マダム ベーラモンテ。
ありがとうございます。

鑑定会の予定

◎占いフェス サマー
7月14日・15日・16日三日間、高田馬場会場で開催予定。
◎江東区北砂文化センターにて サマーフェステバル無料鑑定会。
8月4日（土）
以上の鑑定予定がおりますので参加ご希望の方は早目に事務局にお申し込みください。

事務局だより

◎次回は総会と例会
日時 七月二十八日（土）
午後一時十五分より 終了後懇親会予定
場所 足立区勤労福祉会館ブルミエ
総会 平成三十年定期総会開催
講演 福田有宵、他
◎一般社団法人 日本占術協会定期総会が行われます。
日時 六月二十四日（日）
ホテルグランドパレス（九段下）
◎三月度有宵会は、六十五名の方が参加されました。
八川 林加

編集後記

皆さま方からの原稿をお待ちいたしております。

編集長 佐藤宗暁

占例は特に大歓迎です。